

日本の過去の歴史に学び、その視点から今と未来を考え、

「新しい戦中」にしない運動を広げていきましょう

反対の声を無視する形で 1966 年に「建国記念の日」が制定されてから、60 年が経ちました。紀元前 660 年に神武天皇が天皇に即位したと伝承されていることを理由にこの日が決められています。しかし、その時代は日本の最古の古文書と言われるものからでさえ 1000 年以上も遡る時代です。明らかにこれは、科学的に事実とは確認・証明できないものです。にもかかわらず、「建国記念の日」は、それ以来「万世一系」といわれる天皇制とその統治を賛美する役割を果たすものとして使われています。

戦前は、その天皇制・国体を維持するために、政府にとって都合の悪い思想や行動を監視・統制するための治安維持法などがつくられ、国民を弾圧しました。この弾圧によって多くの犠牲者が生まれ、国民は戦争へ巻き込まれていきます。軍関係者だけでなく民間人も含めると、日本では 300 万人以上の、中国では 1300 万人以上の、それらを除くアジア・太平洋では 900 万人以上の死者を生む結果となりました。

国民は、この反省の下に、日本国憲法を制定しました。その第 9 条では「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と高らかに宣言しています。

しかし、今、日本の政治はどうでしょうか。世界の政治はどうでしょうか。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区への侵攻、アメリカのベネズエラ介入、中国の海洋進出など。そうした国際情勢に、批判も出来ない日本の政治。同盟国アメリカの言いなりに軍勢力強化に走る今の日本政府の姿勢は、本当に危惧されます。

そして、政府はそうした危機を煽りながら、私たち国民を、政府の言いなりの「臣民」に再びしようとしています。国民の知る権利を奪い、政府の行動を秘密裏に行う「特定秘密保護法」はすでにつくられました。今、新たに「スパイ防止法」という名の、国民の思想監視・統制をめざす法律の制定が画策されています。しかし、「スパイ防止」という表現ならば「必要かも」と思わせるからこの表現にしたかも知れませんが、中身は、明らかに国民の思想・行動を監視・統制するものであり、「国民監視・思想統制法」とも言うべきものです。戦前の「治安維持法」と同じ、国民弾圧の武器となるものだと考えるべきです。断固、阻止しなければなりません。

本日、私たちは、荻野富士夫さんをお招きして、こうした視点から、今の政治の現状と問題点を学びました。折しも、本日は、日本のこれからの進路を左右する衆議院総選挙の投票日でもあります。今日の学びを生かし、日本にとって進むべき道はどのような方向なのか、考えながら投票行動に結びつけましょう。そして、投票結果により新たに組閣される政権の下、歴史の過ちを繰り返さず、地球上のすべての国が「平和」の中で共存できるような世界となることを目指していきましょう。

本日の集会に参加した私たちは、そのことを改めて決意します。

そして、県民のみなさんにも、ともに歩んでいくことを広く強く訴えます。

2026 年 2 月 8 日

「建国記念の日」に反対し日本の今と未来を考える集い 参加者一同